

令和3年度 第2回鞍手町総合教育会議 議事録

- ・日 時 令和4年2月25日 午後1時30分
- ・場 所 鞍手町役場 第2会議室
- ・出席者 町 長 岡崎邦博
教育長 外園哲也
教育委員 藤井睦彦
教育委員 野中眞知
教育委員 堀角泰正
教育委員 都甲千恵子

(事務局)

総務課長 三戸公則、庶務管財係長 神谷 徹
教育課長 古後憲浩、教育環境整備係長 村岡 崇
教育係長 岩崎一宜

開 会 (13:30)

○総務課長 (三戸公則)

皆様こんにちは。定刻より少し早いですが、ただいまより、令和3年度 第2回鞍手町総合教育会議を開催させていただきます。

本日、進行を務めさせていただきます総務課長の三戸と申します。よろしく願いいたします。

本日の会議につきましては、急な開催の申し出にも関わらず、日程等の調整にご協力頂きまして誠に有り難うございます。

それでは、さっそく次第に沿って会議を進めさせていただきます。次第2、岡崎町長より挨拶を願います。

○町長 (岡崎邦博)

皆様こんにちは。つい先日令和4年になったかと思うと、もう既に2月25日で、あっという間に3月になってしまい、何かと気ぜわしい、忙しい時期になりました。先ほど三戸課長が申しあげましたように急な総合教育会議の開催にもかかわらず、皆様お集まりいただきまして誠に有り難うございます。

私が町長に就任させていただいてから、この教育会議は何度となく開催させていただきました。その中でいつも出てくるのが小学校のあり方についてどうするのかという話題でした。そうした中、一昨年からPTA連合会を中心に保護者の皆様にアンケートを取って頂いたことから始まり、令和3年度において小学校のあり方検討委員会を立ち上げさせていただきました。その結果、1次提言2次提言があり、それを受けて教育委員会の中でいろんな議論があったと聞いております。本日はそのことについて報告をいただきながら、色々な話をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくおねがいします。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。続きまして次第3外園教育長よりご挨拶をお願いします。

○教育長（外園哲也）

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、岡崎町長を始め、教育委員の皆様にお集まりいただきまして誠に有り難うございます。本日は町長と教育委員の皆様で、鞍手町のこれからを背負う子供たちをどのような環境で育てていくかという大切な会議となります。どうか忌憚のないご意見をいただきながら、より良い方向に進めていきたいと思っておりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。それでは、次第4の議題に移ります。(1)「鞍手町立小学校の統合に向けたあり方について」でございます。これにつきましては、まず教育長よりご報告をお願いいたします。

○教育長（外園哲也）報告書の読み上げ。

鞍手町長岡崎邦博殿、鞍手町教育委員会教育長外園哲也、今後の町立小学校の統合に向けたあり方について報告。

令和2年度第1回総合教育会議において検討課題とされた小学校の統合に向けたあり方について、附属機関として設置した鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会の提言書を踏まえ、以下のとおり方針を定めましたので報告します。

記、教育委員会としては、鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会からいただいた提言を最大限尊重し、現状の6小学校を1校に統合する方針とします。

ただし、1校に統合することで学校規模が大きくなることから、発達障がい等の児童を含む大きな集団に溶け込むことが難しい児童に配慮するため、教員配置等のソフト面、GIGAスクール構想の実現を含む校舎・設備等のハード面を充実させることに加えて、人間関係に困っている児童やそもそも学校という枠組みに属することが難

しい児童への対応として、適応指導教室の機能を更に充実させた仕組みの導入を併せて検討していきます。以上です。よろしくお願いいたします。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。それでは、ただ今の報告に伴う説明を事務局の方から行います。

○教育環境整備係長（村岡 崇）

それでは私の方から簡単にこれまでの経緯について説明をさせていただきます。ただいま教育長の方より町長へ報告書を読み上げていただきました。これにつきましては、次第の次のページに同じものを皆様にお配りしております。その次のページに今後の小学校の統合に向けたあり方についてという資料を1枚付けておりますので、これに沿って説明させていただきます。提言にもありましたが、令和2年度の第1回鞍手町総合教育会議において小学校の統合等を今後どうするのかということが課題として挙げられましたので、令和3年度に附属機関を設置して検討を教育委員会の方で進めてきました。合計6回の協議を行ない、その結果については2回に分けて提言書をいただいております。この第1次提言書と第2次提言書につきましては、本日お配りしております資料の最後から1ページ目と2ページ目が提言書の写しとなっております。提言書の内容につきましては、本日の会議にご出席いただいております皆様には既に周知しておりますのでこの場での説明は省かせていただきます。

次に、この提言を受けまして、本年2月18日に鞍手町教育委員会を臨時で開催いたしましたして、教育委員会としてどうするのかという話をさせていただきました。その際、4名の教育委員さんから出された色々な意見を資料にまとめております。この意見につきましては、本日、教育委員さんがおられますので、必要に応じて委員さんの方からそれぞれ発言していただきたいと思います。私からの説明は省かせていただきます。

最後に、これを集約したものを報告書にまとめて今回提出しております。以上が簡単ではございますが、これまでの経緯の説明になります。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

この総合教育会議につきましては、町長と教育委員会が意見を交わす場となっておりますので、色々なご意見を交わしていただきたいと思います。

それでは始めに町長の方から今回の報告を受けましてご意見がありましたらお願い

します。

○町長（岡崎邦博）

先ほども少し触れましたが、小学校のあり方検討委員会の委員の皆様におかれては資料にもありますように合計6回の会議を重ねていただきました。その中で色々な意見があったということは聞いておりますが、非常に精力的に、そして小学校だけではなく町全体を含めた形で議論していただいたのではないかと感じております。

私としましては色々配慮していただいた中での議論ということで非常にありがたく感じているところです。そして、それを受けまして教育委員の皆様も色々議論を重ねたとお聞きしておりますので、その内容についてもこの場でお聞かせいただければという風に思っております。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

それではよろしければ、教育委員の皆様から意見等がありましたらお願いします。

○堀角委員

アンケート結果や、あり方検討委員会の委員さんの色々な意見を参考に、教育委員の皆様で意見を出し合ったんですが、最終的には皆さん同じ方向になりました。

まあ、1校が正しいのか2校が正しいのかなかなか判断しづらいところではありましたが、色々な意見を参考にさせて頂いた上で最終的に教育委員の皆さんが納得し、そういった形で進めたらどうかという意見になりました。

○町長（岡崎邦博）

具体的にはどのような意見が出たのでしょうか。

○堀角委員

私が言ったのは、予算の関係や教職員の人数が減らされることなどありますが、まず一番に考えなければいけないのは子供たちの教育環境の充実です。小学校の統合を1校にするのか2校にするのかという選択肢の中で、特別支援の子供たちのことを考えると2校の方がいいのではないかと最初は思っていたのですが、最終的には色んな保護者の意見や委員さんの意見を聞きながら、小学校の時に少ない環境で育つより、1校に統合して大きな母体の中で過ごすことにより中学校ギャップなどが軽減されるのではないかと意見をいただきました。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

もしよろしければ順番に各委員さんよりご意見をいただきたいと思います。

○都甲委員

私も最初このお話をお聞きした時に、やはり2校の方がいいのではないかと最初は思っていました。ですが、あり方検討委員会の皆さんの意見を見させていただいて更に他の教育委員さんの意見を聞かせてもらって、2校にするよりも1校に統合して集団に馴染めないお子さんに対応する適応指導教室の充実を図る方がいいのではないかと私も思いました。小学校の統合ということで、小学校のことだけで話があったのですが、適応指導教室の充実ということで中学校の方にも対応できるのではないかと思います。私の娘は中学生ですが、小学校にいる時よりも中学校になってからの方が学校に来れないお友達が増えたと、クラスに4名くらいいるという風に聞いています。なので、私としましては、小学校の統合を待たずに先行して適応指導教室の充実を考えていった方がいいのではないかと、これは統合の話とは別になりますが、この部分の充実を図ることも大事なことはないかと思います。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

次は野中委員さんよろしいでしょうか。

○野中委員

統合に向けては2つの立場がありまして。ひとつは町の行政でありまして、これは私どもには分かりにくい部分ですが、素人なりに考えるのは、保護者の方にとって転入転出等する際には学校というものを一番に考えられています。そうしたときに鞍手町の学校は魅力あるものであるのかどうか少し疑問に思います。そう考えると最初に建物の見た目が大切だと思います。立派な設備が整った学校というのは外部から見たときに非常に魅力がある。そしてこれは鞍手町をアピールするひとつのテーマとして、このような立派な設備の整った学校で教育が受けられますので皆様引っ越してきてくださいと言えるような、小学校が町の魅力とひとつとしてアピールできるものにするためには、2校よりも1校に統合する方が、経費をかけてより中身のある設備も充実した学校になるのではないかと思います。

それからもう一つの立場として、教育内容の側から考えたときに、先ほども言われてたように、たくさんの先生方たくさんの子供たちの中で揉まれるということは教育の原点の中で非常に大事なことだと思います。その中において変な言い方ですが勝っていかなければならない。その揉まれる環境でどのように生きていかなければならないのかを教育という場で自然に学ぶことは子供たちにとって非常に大切なことなので、

小規模の学校もいいんですが、ある程度の大きさの学校の方が...鞍手町の場合、統合しても大規模校になりませんので、ぜひそういった形で教育の場を設けてもらいたいと思います。それから、子どもたちの中で学校そのものに行けない子供たち...学校の建物の中に入れない子供たち、友達の輪の中に入ることができない子供たちには第2の場所として適応指導教室、これは小中一緒にいいと思います。そうすることで先輩は小さい子供たちに対する思いやりを学びますし、小さい子供たちは先輩たちにどのように接していったらうまくやってけるのかを体験することによって学ぶ場にもなりますので、私はそのあたりの充実も図っていただけたらいいと思っています。そしてそこには専任の方をおいていただけたらベストだと思いますので。ぜひそういう形でお願いしたいと思います。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。
では、藤井委員お願いします。

○藤井委員

私は、いま時代の流れで少子化になってきていることは誰もが認識していると思いますが、その中において学校をどのように創っていくものなのかと考えたときに、小学校と中学校の9年間を見据えた形で子供たちの学力を上げていくことが大事であると皆さんも言われています。それから他の市町をみましても学校の集約が進んでいるのは事実であり、その結果を聞いてみると、やはり子供たちを育てるためには大人数で集団の中で育てるのが一番理想だと言われていました。小規模校にはいい面もありますが悪い面もあります。子供たちをこれから先、世の中に送り出すためには、どのような子供に育てていく必要があるのか、いまの教育現場では大きな問題となってきています。そうしたときに、今回のあり方を検討した中で1校か2校のどちらにするか悩んだ中で、最終的には1校に統合して子供たちにとって有意義な環境を創ってもらいたいという意見になりました。

町長がいつも小中連携と言われていますが、なかなか小中連携ができていないのが現実です。ではこれをどうするのかと考えると、子供たちの9年間を見据えた形でどう育てていくのかが大きな問題で、その中において鞍手町が担うものは何かというと、先ほどから話が出ていますが、子供たちを育てる場となる学校をどうつくっていくのか、これを今から先、煮詰めていかなければなりません。そういうものと考えたときに、やはり集約する方がやり易いのではないかというのが私の意見です。そしてその方向に向かって良いものをつくってもらいたいというのが私からのお願いです。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

それでは、教育長からもよろしいでしょうか。

○教育長（外園哲也）

まあ、1校なのか2校なのかということで色々と悩みながら検討したわけですが、価値観の多様化ということで親や子供の立場からすれば選択できるということであれば2校の方が有利になるということになります。ハード面でみますと1校に集中した方がより良い環境や設備を整えることができるのではないかと、いずれにしても、1校にしても2校にしても一長一短があるのですから、あり方検討委員会の提言を受けまして協議した結果、教育委員会としましては1校という結論が出ましたので、1校のメリットを最大限活かして、デメリットを最小限に抑える方策を考えていって今後の鞍手町を担う子供たちが学ぶ環境を整えていけばいいのではないかと考えております。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

それでは、これを受けまして町長から一言よろしいでしょうか。

○町長（岡崎邦博）

小学校の適正な配置ということで、私自身、子供の教育環境はどのような形が良いのか常々考えておりました。先ほども言いましたが、子供たちが小学校の6年間と中学校の3年間の義務教育において鞍手町でどう成長していってもらえるのか、教育環境を整える上での小学校の適正配置ということからすれば、この学校というのは一義的には子供の教育の場であることから、当然のことながらそれを一番に優先する必要があります。ただ、地域の中に入っていくと、それぞれの地域ではいろんな考えがあり、小学校が無くなってしまふことに対する寂しさだとか地域コミュニティとしての役割など、地域の方々の中でも色々とお考えになっている方もいると思います。そのような地域の思いも当然ながらあるということは前提の上で、先ほど言いましたように一義的には子供たちの教育環境として最大に活かせるあり方が必要だということでご議論いただく中で、1校がいいのか2校がいいのかなどあったと思います。それぞれに長所があり短所があるわけですが、先ほどの教育長の言葉にもありましたが、あり方検討委員会の提言を受けて教育委員会が出された考えとのことでしたので、私なりの考えもありましたが、1校に統合する方向で進めようと思います。

そして、教育長が言われたように1校でのメリットを最大限に活かし、デメリットを最小限に抑えることを常に考えていくことが必要だと私も思います。また、委員の皆様が心配されている学校に馴染めない子供たちや適応障害、発達障がいなどの子供たち、傾向としては少しずつ増えていると伺っております。そういった子供たちにとってどのような教育環境が望ましいのかが大きな課題の一つだと思っております。ひとりど

してこぼれることがない教育環境を整えることが必要だと思います。

もうひとつは、野中委員からもありましたように対外的にアピールするためには新しい学校があった方がいいですし、これには財政的な問題が色々ありますが、私自身も当初から学校は新しいものをつくって、新しい学校の環境の中で子供さんが学び育ってくれたらいいなと思っています。今ある学校が良いとか悪いとかではなく、将来の鞍手町を担っていただく子供たちなので、それこそこれからの時代に即した学校にしていきたいと思っています。教育環境として学校施設、校舎それぞれが非常に重要であると思いますし、そういった施設と教育内容のふたつがそろってはじめて素晴らしい教育環境というふうに言えるのだらうと思います。校舎につきましては色々財源等を含めてこれから検討していくことになりますが、先ほどもありましたように、鞍手町のひとつのアピールするポイントにもなり、今後の移住定住にもつながりますので、最大限努力して子供たちからあの学校に通いたいと思われる学校をつくりたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

議第1の鞍手町立小学校の統合に向けたあり方につきましては、教育長からの報告、各教育委員の皆様よりいただきましたご意見、そしてそれに対します町長のご意見を総合しますと、鞍手町として現状の6校ある小学校につきましては1校に統合する方針で進んでいくということを確認していただいたということによろしいでしょうか？

○主席者全員

はい。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございます。

それでは議第1につきましてはこれでまとめさせていただきます。

続きまして議第2のその他に移ります。何かございましたら自由なご意見をいただきたいと思っています。

○野中委員

お願いです。お金が絡むのでどうしようかと思いましたが、今日の話で鞍手町として1校で進めるとなりましので、せつかく1校になるのであれば、敷地が許すなら給食の調理施設もぜひ同じ敷地内につくっていただきたい。子供たちが伸びたうどんなどではなく、温かく美味しい給食が食べれるということと、運搬する経費なども削減できるのではないかと思います。移転費用はかかりますが、せつかくなので新しい将来を見越

した施設をつくっていただけましたら非常に嬉しいです。

これからの子供たちには学校教育の中で食の教育という分野もありますので、中でちゃんと指導できる環境を、低学年のうちから給食を作っていたいただいている方たちに感謝の気持ちを伝えたりといった場面もありますので、予算等許せるのであれば一緒につくっていく方向でご尽力していただけますと、子供たちや保護者にとってもすごく良いのではないかと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

○町長（岡崎邦博）

給食につきましては、議員時代に給食の運営協議会に入っておりまして、当時は今よりももっと給食センターの設備等が古くて大変な時期がありました。それで、提案をしまして今の新しくなる前の遠賀町の給食センターに視察に行ったりして、当時 4,500 万円ぐらいかけて中の整備をしての今があるわけですが、少なくとも今の建屋自体が非常に古くなっています。そしてまた私自身、給食に対しましてもすごく思い入れがありますので、先ほど野中委員が言われましたように学校に併設して給食センターを設置できればいいと考えております。

というのも、今の給食センターの体制では、管理上どうしても温かいものを一旦冷やす必要があります。温かいものを温かいまま、冷たいものを冷たいまま食べれないというのが今の現状としてあるようです。

ですから併設していればこれらが解消され、温かいものはそのまま給食として提供できますので冷やす必要がなくなるのではないかと考えています。

そして私としてはランチルームをつくって、できれば1年生から6年生までが同じスペースの中で給食をとれるような場を設けたらいいなと思っています。さらに子供たちが給食を作ってくれるおじちゃんおばちゃんの顔が見えて、その方たちに感謝が出来るような環境がくれたらいいなと思っていますし、食材についても鞍手産のものを使ったり、1校に統合となりましたので、例えば子供たちが自らお米なんかを作ったり芋を植えたりして収穫したものを食材として使うことも出来るんじゃないかと思っています。そしてまた、先ほど食育のことを話されていましたが、農家の方々にも講師という形で来ていただいて子供たちに色々なお話をしていただければ子供たちの職への関心も深まり、嫌いなものが食べれるようになるなどの効果があるという話も聞いておりますので、そういった食育の場、重要な教育の場としてこの給食施設を考えております。いま野中委員からしっかり要望をいただきましたので、財源のことはありますが、なんとか併設をしてひとつの教育の場にしたいと思います。

○藤井委員

1校での新しい学校となると、これからかなり大変になると思われますが、町長の考えにあるかどうかわかりませんが、小学校の統合に向けたプロジェクトチームのようなものを立ち上げるお気持ちはありますか？

これは、どのような形で学校をつくっていくのか十分検討していただけて進めても

raitaiという私からのお願いです。

○町長（岡崎邦博）

いまのところプロジェクトチームをつくることは考えておりませんでした。これから先、当然、住民説明会や議会での説明だとかかなりのエネルギーを必要とするところだろうと思われませんが、私自身は今の体制で行こうと思っています。

教育長を中心に教育係、教育環境整備係と、あとは町で説明をするという風に考えておりました。ただ、地域に入っていくと色んなご意見が出てくると思います。先ほども少し触れましたが、どうしても地域の方たちは、おらが学校みたいな意識が当然ながらあると思いますし、じいちゃんたちが卒業し、お父さんお母さんも卒業、そして、お孫さんたちも通っている小学校ということもありますので、そこのところをどうやって説明し、理解をしていただいて、最終的には町全体としての合意形成を図っていくのかとなると思います。そうしたときにプロジェクトチームということになりますと、どのようなメンバーで組織すればいいのか今のところ想像もつかないところがあります。これにつきましては色々と協議をした中でどういう風にするか考えていきたいと思っておりますので、先々機会をいただいてご相談させていただければと思います。

○藤井委員

色々と考えていただいて進めていただきたいと思いますし、私としましては出来るだけ早くやってもらいたいと思います。小学校の先生方の負担も非常に増えていますし、色んなものが絡んできていますので、そういうものを全体的に見たときに、やはり早く進めていただきたいと思いますというのが私からのお願いです。

コンサルタント会社から何から入れて進めていくとかなり時間もかかってくると思いますから、そういうところも見極めて頂いて進めていただきたいと思います。よろしくお願ひします

○町長（岡崎邦博）

時間につきましては、1校への統合が決まりましたので私自身もできれば早く進めたいと思っていますし、子供たちにとっては一年一年が大事になります。この一年一年を大事にするためには、やはりスピードが必要だと思います。とは言いつつも行政というのは単年度主義となりますので、なかなか年度途中からどうのっていうことはなりづらいものなので、新年度予算の中でも予算付けしているものもありますので、藤井委員からも言われましたが、急ぐあまりに焦ったり、逆にじっくり構えて遅くなってしまわないよう、その辺を考えて、よく言われる言葉であまり使いたくないんですが... スピード感を持って進めたいと思います。

○藤井委員

よろしくお願ひします。

○堀角委員

今回の反省として、町長の思いがどうだったのかなということがひとつと、それから今後の取り組みに当たって小学校の場所であったりとか、わかっていた方がいいのか、あまりトップダウンというものが好きではないか思いつつも... 事前に町長の考えも聞いていたらこちらの思いも少し変わっていたのかとも思いながら、その点に関しては少し反省していました。

○町長（岡崎邦博）

まあ以前、総合教育会議の中で一度か二度は言ったことがあると思います。ですがそれは決まったことなので、今更ここで私の思いを言うべきではないと思います。確かに今回の教育委員会からの報告と私の考えには違う部分もありましたが、それはここで議論するものではなく、私自身は住民の方たち特に保護者代表の方たちが真剣に議論していただいて、更には教育委員の皆様で協議していただいて、今の子供たちや将来の子供たちにとって最善の方法であろうと思える結論を出していただいておりますので、先ほども言いましたように、これを最大限活かしていくということだと思います。

また、場所につきましては、私なりの考えもありますが、学校の設置場所というのは街づくりそのもので、学校の位置で街自体が変わってきます。ですので学校の場所や子供たちの通学路などを含めて考えていければいいなと思っております。

○都甲委員

1校への統合で進むということですが、今まで6校あったものが統合することで先生方の負担がすごくあると思いますので、先生方の負担も考えながら統合を進めていただきたいと思います。

○町長（岡崎邦博）

統合するということは当然1クラスの子供の数が増えることが前提になります。先生方に聞いてみないと何とも言えませんが、国の基準としましては1クラス35人で、段階的に35人になることになっています。鞍手町の児童数からすれば1クラス35人になるのかどうかちょっと分かりませんが、鞍手町だけではなく、北九州教育事務所管内の中で先生の異動等が行われておりますので、全体を見た中で考えていくことになるのではないかと思います。

○教育長（外園哲也）

小規模校の子が一気に35名クラスとかになりますと、カルチャーショックではないですが、人間関係で困ってしまうというお子さんも出てくるのではないかと思いますので、できましたら2、3年かけて緩やかな傾斜でクラスの人数を徐々に35人にもっていければ、小規模校から子供たちがうまく馴染んでいけるのではないかと思います。

また先ほど給食センターの話が出ましたけれど、同時に学童の方も同じ敷地内にできますと子供たちの異動する時間も短く、安全面も良くなりますし、働く親にしてみれば学童が学校のすぐ横にあるとか充実しているとかいうものがあれば鞍手町に住もうかなと思われる保護者も出てくるのではないかと思いますので、用地確保等々大変だとは思いますが対応できるのであればお願いしたいと思います。

○町長（岡崎邦博）

学童についても私自身ずっと学校の敷地内につくろうと言っていました。だけど、当時の教育長が管理の問題があるとかで、結局、学校の敷地内につくれなかったわけです。学童の先進地としては春日市とかが有名なんですが、私は見たことはありませんが、ログハウス風の学童が学校敷地内にあるとか聞いてたりしてましたので、子供たちからすれば、学童が学校の敷地内にあって、なおかつ学校のグラウンドで遊べて遊具も使えるというのが本来ベストな環境だと私はずっと思っていたんですが、当時は議員として教育長に何度もお願いしましたが残念ながら現在の形になっております。

そういうことですので、今回、どこに学校を設置するのかはまだ決まっておりませんが、できればそういう敷地があるところで敷地内に学童が出来れば子供たちにとっても保護者の方たちにとっても安心して学童に預けられる環境になるのではないかなと思っています。

○総務課長（三戸公則）

ありがとうございました。

その他、なにかございますでしょうか？ 他にないようですので以上で議題を終了させていただきます。

本日は小学校のあり方につきまして大きな課題に対する考え方が解決の方向に向けて一致したと思います。今後、統合に向けて進む中で新たな課題が出てくるかと思いますが、この総合教育会議の中で意見を交わしていただきながら、子供たちにとってより良い教育環境を整理していただきたいと思います。

それでは以上をもちまして、令和3年度第2回鞍手町総合教育会議を終了させていただきます。本日はお忙しい中どうもありがとうございました。